

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	第1回姫路市観光戦略プラン検討懇話会
<b>2 開催日時</b>	令和8年2月19日（木曜日） 15時00分～16時45分
<b>3 開催場所</b>	姫路市総合福祉会館 5階 第3会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	出席者：姫路市観光戦略プラン検討懇話会 委員8人（欠席者1名） 事務局：観光コンベンション室、産業振興課、国際戦略課
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人なし
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 委員紹介</li><li>3 協議事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 姫路市観光戦略プラン検討懇話会について</li><li>(2) 姫路市観光戦略プランの改定について</li><li>(3) 現行プランの概要について</li><li>(4) 現行プランにおける事業評価について</li><li>(5) 委員による事例等の発表</li><li>(6) 意見交換</li></ol></li><li>4 閉会</li></ol>
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

別紙

事務局	<b>1 開会（15：00～）</b> 事務局挨拶
事務局	<b>2 委員紹介（15：05～）</b>  <b>3 協議事項（15：17～）</b> 座長選任 資料説明 (1) 姫路市観光戦略プラン検討懇話会について (2) 姫路市観光戦略プランの改定について (3) 現行プランの概要について (4) 現行プランにおける事業評価について
座長	事務局のご説明につきまして、ご意見、ご質問ございますか。
委員一同	(意見なし)
座長	それでは次の議事の方に移らせていただきたいと思います。協議事項の(5)、委員による事例等の発表をお願いします。
委員	<b>(5) 委員による事例等の発表</b> <b>[全国の観光動向について]（15：25～）</b> 国の現状の観光振興の動き、観光のトレンドについて説明させていただきます。 現状、日本は世界から魅力的な国であると感じられています。アメリカ・イギリスの旅行雑誌「コンデナスト・トラベラー」では、読者のランキングで日本が2年連続で世界1位となっています。2024年の訪日客数は3,687万人、消費額は8兆1,257億円といずれも過去最高を記録しており、訪日客数ベースでは韓国が、消費額ベースでは中国が最も高い。世界の観光客数では、日本は世界8位（アジア1位）となっています。  トレンドとして、政府目標である4,000万人が手に届くところにきていますが、足元を見ないといけない時期にあります。政府目標の達成と持続可能性の両立が問われ

ています。今は「量」から「質」への転換期です。観光地の住民の方々への影響や観光資源への負荷を考えた観光地経営の設計・運営へ移行していく必要があります。また、世界の旅行者の意識の変化もあり、混雑を避け、静けさやローカル性、本物性を求める「脱マス観光」に向かっています。混雑を避ける旅行者のニーズに応えることで、新しい市場を開拓できるということになります。

これまでの負荷を減らす「サステナブル」から更に進んで、訪れるほど地域が良くなる「リジェネラティブ（再生型）」、そして観光地の持続可能性を高めながら、地域社会と産業が共に成長する「観光サステナビリティトランスフォーメーション（観光SX）」という概念が生まれ、今、目指されています。

国内での事例として、京都市の「朝観光・夜観光」による時間分散、また、京都府の「京都1周トレイル」により、観光客の集まる京都市街を避けたエリアでのトレッキングによる新しい過ごし方の提案など、周辺部への誘導による場所の分散が有効な設計図となります。

姫路市への提言として、多くの外国人が姫路城を目指して来ていますが、現在は受け入れを増やす段階から設計する段階と移行しています。混雑を避けるための新しい提案、滞在を促す価値、さらには稼働率や満足度も考えていく必要があると思います。今回のプラン策定においても、地域として観光を「整え、回し、育てる」ための戦略・計画と施策づくりが必要ではないか思います。

#### **[兵庫県の観光動向について]（15：47～）**

ひょうご新観光において、今兵庫県がどのようなことを見直し、どのようなこと目指しているのか等をお伝えします。

まず、目指す姿として、大阪・関西万博、コロナ禍を経て、観光戦略の中間見直しを行おうと、この一年間ほど方向性について話し合ってきました。兵庫県では「より深く、何度でも訪れたい地」として、多様な方々の感動と住民の幸せ（ウェルビーイング）を両立させたいと考えています。

次に、戦略の柱として、大阪・関西万博を機に地域課題をコンテンツ化した「フィールドパビリオン」や、地域の物語や交流を重視する「テロワール旅」を基軸とし、長期滞在、高付加価値化、再訪の促進を目指しています。

課題としては、兵庫県はインバウンドでいうと少し遅れており、たくさん来ていただいているが泊まっていただいていない。兵庫県においても、オーバーツーリズムに陥らないよう、量と質のバランスを考慮した誘客やコンテンツづくりに取り組んでいく。

委員

そのための方向性として、1つ目は、兵庫だけではなく新たな広域観光圏をつくっていくこと。2つ目は、姫路はインバウンドから見た魅力が絶大な地域ですが、そのインバウンド拠点からプラスワンで広域的に宿泊滞在を促していくことにより、地域の経済を回していくことを考えています。

見直した施策については、それを実践するためにどの部局が何をするべきかがぶら下がっており、その部局は観光部局だけではないところも入っているため、連携して実践していく必要があります。

姫路城保存活用計画は、姫路城の改修保全に関する計画で、200年後まで見据えた極めて長期的な視野の計画となっている。これからの観光戦略はこうあるべきで、サステナビリティの実践でもあると考えています。

広域連携は大変重要であるため、兵庫県と姫路市で情報共有し、観光戦略だけではなく、具体的なアクションプランに結びつける必要があると考えています。

#### **[姫路市の観光動向について] (16:04~)**

委員

DMOの視点から、姫路市の観光の動向についてお話しします。

姫路城の価値について、入城料2,500円への改定は二重価格の面が論点となっていますが、もう一つ重要なのは18歳以下を無料とした点であり、姫路市からの重要なメッセージであると考えています。18歳以下が入城無料である点を活かすため、DMOは「体験型探究プログラム」のリニューアルを行い、修学旅行の誘致を積極的に進めたいと思っています。

姫路城ともう一つの観光地、例えば書寫山圓教寺を観光してもらう「姫路城プラスワン」という考え方がありますが、すこし別の角度からの「プラスワン」として、姫路城の中でもう一つ体験していただくという考え方もあると思います。アーリーインによる開門体験や、姫路城プレミアムナイトツアー、姫路城ライトアップなど、柔軟な形で戦略に織り込むことが大切だと思います。

姫路市内の総生産量(GDP)は2.8兆円、観光消費額は0.1兆円です。数字だけ見るのではなく、製造業の方も、観光事業は大切に思われているようで、オープンファクトリーなどにも協力いただいています。それはなぜなのかという視点を持ちながら「ものづくり」と観光を融合させ、稼げる観光地を目指しています。

また、旅行者は一カ所に留まるわけではないため、他地域とのタッグを組んで戦略を練ることが重要です。播磨、神戸、瀬戸内、国宝五城、姉妹城など、連携の形を模索していく必要があります。

座長	<p>(6) 意見交換 (16 : 24～)</p> <p>個人的には、全国、兵庫県、姫路市と階層的に発表いただいて非常にありがたいと感じました。まず、私から質問よろしいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混雑を避ける誘導（分散）はどのようにコントロールするのがよいのかについて伺いたい。</li> <li>・兵庫県全体の戦略と各市町村の戦略はどのように整合性を取っているのか、また、兵庫県全体のコントロールは誰がしているのかについて伺いたい。</li> </ul>
委員	<p>どうすれば上手くいくのかはまだこれから試行錯誤をしないといけない段階だと思っています。</p> <p>地域の隠れた資源を活用していくためには、行政・DMOのみならず、旅行会社や航空会社、バス会社、鉄道会社など多様な方々を巻き込んで連携していかないといけない。</p>
委員	<p>まず、オーバーツーリズムの対策に関してはやるしかないと考えている。岐阜県の事例では、例えば、白川郷の場合は車を入れないようにしました。最初は確実にハレーションが起きますが、そこは丁寧な説明を重ねていくしかありません。</p> <p>また、海外の旅行会社は常に新しいものを求めているので、適切に情報を伝えていくことで誘導することができます。同時に、現場での交渉を地道に進めることも大切です。</p> <p>兵庫県全体の戦略については、現時点でできていないから戦略に盛り込んでいるという面があります。できている自治体とそうでない自治体がありますが、問題意識を持ち、動こうとする人間がいるかどうかという問題があります。</p>
座長	<p>できていないからやろうとしているというのは分かりやすいので納得できます。終了時間を過ぎていますが、せっかくですので他の委員もコメントをお願いします。</p>
委員	<p>先ほどインバウンドが新しい場所を求めているという話がありましたが、日本人のリピーターを含めて、求める体験についてもディープになっています。旅先の地域の暮らしや価値観、ジャパニーズスピリットを知りたいという方が増えています。</p> <p>姫路あるいは播磨で発信できるスピリットで言いますと、目に見えるものだけではなく、クラフトマンシップなどが一つの観光資源として発掘できるかもしれないと、</p>

座長	<p>皆さんのお話を聞いて感じました。</p> <p>他にご意見などございますか。</p>
委員	<p>外部から見ると、瀬戸内は国際的にアートのイメージがついてきているように感じます。それにプラスになるように兵庫県もアートというものをビジョンに取り入れているのでしょうか。</p>
委員	<p>フィールドパビリオンという大阪・関西万博に向けて行った事業によって、多くの資源が発掘されました。兵庫県内には現代アートなどにも通じる文化的なルーツになっているコンテンツも多くあるため、上手く組み合わせることで瀬戸内との繋がりを持ち、エリアとして具体的なアクションに落とし込んでいるという動きはあります。</p>
座長	<p>事務局におかれましては、次回の懇話会について第1回よりも時間を長く取ってもらえるようにお願いします。</p> <p><b>4 閉会（16：42）</b></p>